

平成29年度文化庁日本語教育大会

パネルディスカッション

これからの日本語教育における人材像

～養成の現場と活躍の現場の専門性の両面から考える～

地域日本語教師に求められる専門性 -地域日本語教育の現場から-

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)



内山夕輝

浜松市の特徴

(1) 政令指定都市(2007.4.1～)

2017.8.1現在

人口：806,767人（外国人住民数22,260人）

行政：7区（中区、東区、西区、南区、北区、浜北区、天竜区）

産業：繊維、楽器、輸送用機器等、世界を舞台に活躍する大企業が立地する日本有数のものづくり都市

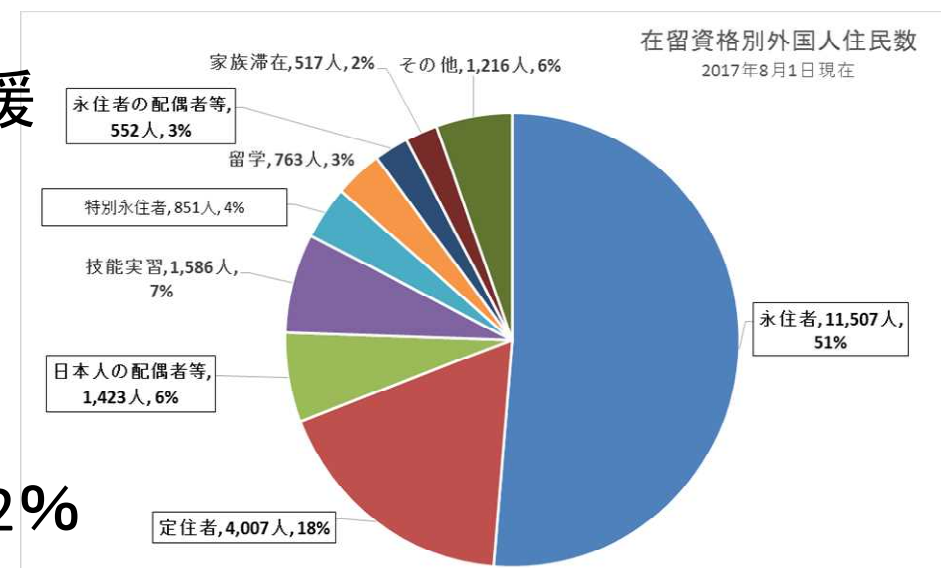
気候：日照時間長い、雪が降らず年中温暖

(2) 外国人集住都市

ブラジル人住民数：8,769人（全国1位）

定住化の進行：

永住者等、長期滞在可能な資格保持者82%



浜松市の多文化共生のあゆみ

80年代(華やかな国際交流)

浜松国際交流協会(HICE)開設(1982)

ねらいは、産業における国際活動の活発化 市民ボランティアによる草の根国際交流

90年代(デカセギのはじまり)

入管法改正以降、デカセギで訪れるブラジル人への初期(生活基盤)支援 日本語ボランティアの需要拡大

90年代後半以降(噴出する課題・受入自治体主導の取り組み)

外国人集住都市会議(2001) 浜松市世界都市化ビジョン(2001) 国際交流・協力に共生を追記

2006年(多文化共生へ向けた国の動き)

「地域における多文化共生推進プラン」(総務省2006)

2008年(リーマンショック・・・緊急経済対策、緊急日本語教育)

ワンストップ相談コーナーの設置 浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)開設(2010)

2011年(東日本大震災・・・輪番休業、続く不景気)

メンタルヘルス相談の拡充 防災意識啓発セミナー

2012年(多文化共生都市ビジョン・多様性を生かしたまちづくりへの転換)

浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)学習者の状況

男性 23人、女性81人 平成29年度8月7日現在

	1	2	3	4	5
国籍 (全21カ国)	中国 24人 23.1%	ブラジル 22人 21.2%	インド 11人 10.6%	ペルー 10人 9.6%	ベトナム 6人 5.8%
年代	30代 38人 36.5%	20代 30人 28.8%	40代 19人 18.3%	10代 8人 7.7%	50代 6.7% 60代～ 1.9%
在留資格	日本人の配偶者 28人 26.9%	家族滞在 24人 23.1%	永住者 22人 21.2%	定住者 14人 13.5%	永住者の配偶者 日本国籍 等
日本在住歴	0-3ヶ月 25人 24%	10年以上 20人 19.2%	1-3年 18人 17.3%	6ヶ月-1年 17人 16.3%	5-10年 12人 11.5%
日本語学習歴	0-3ヶ月 53人 51%	1-3年 20人 19.2%	3-6ヶ月 14人 13.5%	6ヶ月-1年 11人 10.6%	3年以上 6人 5.8%
なぜ日本語を勉強しますか	ずっと日本で暮らすから 33人 31.7%	仕事ができるから (現在無職) 23人 22.1%	家族と日本語で話 すから 11人 10.6%	日本の文化を知り たいから 11人 10.6%	子育てで使うから 7人 6.7%
日本語教室に期待することは何ですか	日本語を勉強できること 54人 51.9%	日本人や外国人と 知り合えること 20人 19.2%	日本や外国の文化 を学ぶこと 15人 14.4%	安心すること 10人 9.6%	お祭りなど地域のこ とを知ること 5人 4.8%

浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)の目指すこと

安定した
就労で



保護者
として



地域活動で



ボランティア
活動で



ロール
モデル
として



学習者の社会参画を支援
多様な人材として地域で共に活躍するために

日本語教室

- ・HAJACシステムの導入
- ・実践クラスのプロジェクトワーク
- ・読み書き支援の充実

支援者の養成

- ・日本語ボランティア養成講座
- ・スキルアップ講座
- ・支援者のためのポルトガル語講座
- ・教職員多文化共生講座

多文化理解 多文化交流

- ・おしゃべりタイムとのコラボ企画
- ・多文化イベント

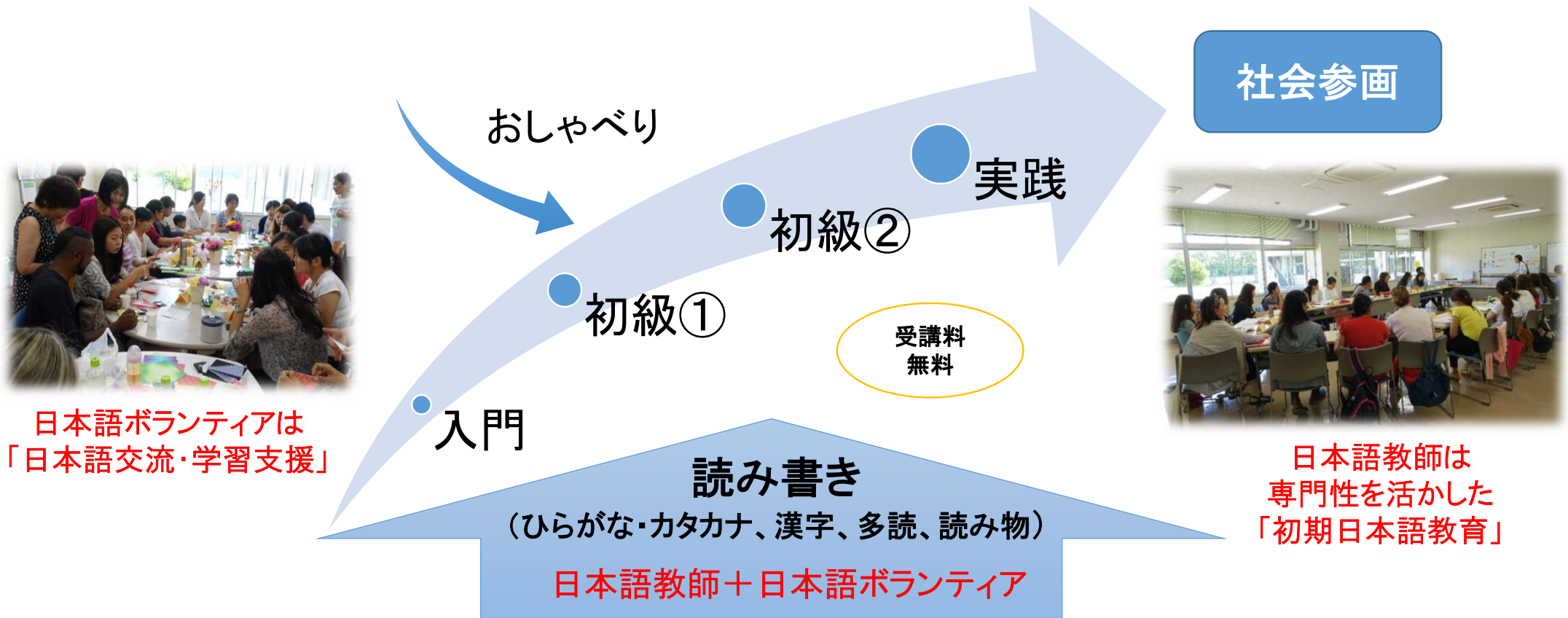
地域日本語 学習支援

- ・ネットワーク会議
- ・ボランティアコーディネート
- ・外国人コミュニティ主催の日本語教室支援

次世代の 学習支援

- ・不就学ゼロ作戦
- ・キャリア支援セミナー、ネットワーク会議

多文化共生に資する日本語教育を 日本語教師×ボランティア×学習者



2013年度から日本語教師と日本語ボランティアのそれぞれの長所を活かした役割分担を

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)

地域日本語教育にまつわる課題

- ・日本語教師の確保が困難→地域日本語教室開講の危機!?

民間日本語教師養成機関で求人説明会をするも関心薄・・・求人サイトを利用して募集するも問い合わせ1人・・・

- ・日本語学習ニーズの多様化→日本語教育＋αの専門性??

学齢期を過ぎた10代の若者対象、技能実習生対象、定時制や通信制に通う高校生対象等、幅広い機関から多数の相談

- ・多様な背景を持つ日本語学習者の増加→ソーシャルワーカーの必要性??

発達障がい、呼び寄せによる意欲不足、日本育ちのダブルリミテッド、妊娠、出産、DV、遺産相続問題、健康不安、家庭不和、失業、介護・・・ライフステージや家庭環境、社会背景の影響を受けやすい立場



地域で活動する日本語教師の理想像は???

日本語教育の専門性があり、日本語教授スキルが高く、かつソーシャルワーカー的な
視野と知識とつなげる力のある人物 → そんなマルチ人材は滅多にいない！出会えたとしても確保できる予算がない！養成するにしても時間とお金が必要！

地域で日本語教育を担う人材を育成するために

地域で活動する日本語教師を増やそうと、
浜松版地域日本語教師養成講座（平成28年度文化庁委託事業）を実施。

養成の内容（地域の現状に対応する内容を取り入れた）

日本語学習ニーズの多様化 ⇒ **地域事情を理解する⇒地域日本語教室見学**
多様な背景を持つ日本語学習者の増加 ⇒ **学習者を社会へつなげる**
⇒ **プロジェクトワーク**

改善が必要な点

内容の精査（受講者のニーズと講座内容とのギャップを埋める）
連携先との円滑な関係構築
継続的な養成講座運営のための事業化
受講後のインセンティブの創出（出口の確保）

地域日本語教育を担う人材の育成を継続するために

